

# 政務活動費調査研究報告書

会派名 市民の会

氏名 大塚正俊

日 程	令和 6 年 7 月 9 日（火）午後 3 時～4 時 30 分
場 所	北海道東神楽町役場
相 手 方	東神楽町；山本町長、森國議長、まちづくり推進課；小畑課長、鈴木課長補佐、建設水道課；高田建築担当課長、瀬戸口課長補佐
参加議員 氏 名	大塚正俊、千木良孝之、須賀要子、木佐貫佳子
目 的	東神楽町の人口維持に向けた取り組みや移住定住相談ワンストップ窓口、未来につなげる「住まいの輪」促進事業について現地調査を行い、人口減少に立ち向かうための施策を探る。
内 容	<p>■東神楽町は、旭川市に隣接しており、町内には旭川空港があります。子育て支援や教育の充実を維持させることにより、40年間継続して人口が増加し、子どもの割合が15年連続で北海道内1位という特長を有しています。行政面積；68.50 km<sup>2</sup>、人口；9,778人。（2024年5月31日現在住民基本台帳人口）</p> <p>■視察概要</p> <p>1. 人口維持に向けた取り組み</p> <p>平成元年から始まった「ひじり野地区」における宅地開発は、旭川駅から6kmというアクセスの良さから旭川都市圏のベッドタウンとして発展し、平成2年に5,700人であった人口は、平成12年には10,000人へと増加しました。「平成17年国勢調査」、「平成27年国勢調査」では北海道内第1位の人口増加率になっています。また平成31年3月末現在人口が10,257人であり40年間継続して人口が増え続けています。これは単に「ひじり野地区」における宅地開発するだけでなく、先進的で充実した子育て支援、保育園・幼稚園の費用無料の対象要件の緩和、学童保育の充実、健康診断（学童検診）の充実、医療費無料化等の医療充実、町民一体型の子育て支援など、総合的な子育て支援も魅力の一つです。</p> <p>また、働く場においても儲かる農業を実現することで、多くの若い農家が多く、耕作放棄地もわずかな状況となっています。医療体制についても隣接する旭川市は北海道第二の都市であり、安心して生活が出来ます。まさに、この町はコンパクトシティの成</p>

功例といえます。

しかし、将来推計人口を見ると、東神楽町はこれから高齢化が進む試算が出ています。そこで、①安定した雇用の創出、②子育て支援の充実、③東神楽町への新しい人の流れづくり、④地域連携の強化を推進することとしています。

## 2. 移住定住相談ワンストップ窓口

移住定住相談は、町まちづくり推進課が兼務で実施しています。HPには、「私たちが責任を持って、ご相談に対応させていただきます。」と明記され、ニーズに合わせたきめ細やかな対応を行っているとのことでした。

空き地・空き家情報は宅建協会旭川支部のウェブページで確認でき、ウェブサイトに掲載されている中古住宅を売買した場合、町から東神楽町商工会商品券を贈呈しています。（売主：5万円、買主：15万円）

・令和5年度成約実績；35件

## 3. 未来につなげる「住まいの輪」促進事業

「ひじり野地区」における宅地については、既に完売されており、新規住民を受け入れる余力がほとんどありません。そこで、退出した土地や建物に若者が入ってくる好循環サイクルを作り出す施策として、「住まいの輪」促進事業を推進しています。

この好循環サイクルを確立するために、三つの柱を掲げ取り組んでいます。

### □ 第一の柱「住宅リフォーム支援補助金」

・リフォームを行い住宅を売りに出すように促す。

### □ 第二の柱「住宅建替え支援補助金」

・更地にして売りに出すように促す「解体・新築支援」。

### □ 第三の柱「中古住宅の円滑な流通支援補助金」

・少しでも空いている土地・家を市場に出すよう促す。

なお、これらの補助事業は平成30年度から実施し、一部の補助事業に対し、国の社会資本総合整備交付金（国費1／2）を活用しています。

未来につなげる「住まいの輪」促進事業により、町内にある既存住宅を良質な住宅ストックにすることで、今後想定される空き家への対策や新たに住民となる移住希望者への対応を図るとともに、子育て世帯、高齢者世帯にやさしい住まいづくりを推進し、将来人口を維持することとしています。

成 果	<p>人口増を続けてきた東神楽町であっても、今後高齢化が進むとともに、生産年齢人口が急速に減少する推計が出ています。人口減少に陥る前に、「今から動き出すしかない！」と考え、いち早く動き始めた町長の積極・果敢な姿勢を中津市も学ぶべきと考えます。</p> <p>東神楽町の人口が増加した理由の一つは、町の力を引き出す様々な政策により総合力を高め、魅力ある地域を創出していることだと感じました。</p> <p>宅地開発をすれば、そこに住む人達のコミュニティが生まれます。住宅を建設する年代は一般的には30歳代から40歳代の方が多く、そういった同世代でコミュニティを形成していけば、年数が経っていけば、そこに居住する皆さんが高齢化していきます。東神楽町で取り組む三つの柱（住宅リフォーム支援、住宅建替え支援、中古住宅の円滑な流通支援）を参考にし、早い時期から高齢化スパイラルに陥ることのないよう、好循環サイクルを確立すべきと強く感じました。今回視察研修で得たものを今後の議員活動の参考にしていきたいと思えます。</p>
-----	---